

YTL コーポレーション(YTLS)

クアラルンプールがNRP第2段階へ移行。ホテル事業は日・豪に続いてマレーシアの回復も期待される

マレーシア | 発電所 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG YTL MK | REUTERS YTLS.KL

- 2021/6期4Q(4-6月)は、売上高が前年同期比23.5%増、営業利益が同19.8%増、税引前利益が前年同期の赤字から黒字転換と回復した。
- 主なセグメント別では、公益事業、セメント製造・販売事業、ホテル事業、不動産投資・開発事業、経営サービス・その他事業が増収。
- 新型コロナワクチン接種普及を受けてクアラルンプールもNRP第2段階へ移行。ホテル事業は日・豪に続きマレーシアの回復が期待される。

What is the news?

9/8発表の2021/6期4Q(4-6月)は、売上高が前年同期比23.5%増の43.65億MYR、営業利益が同19.8%増の4.00億MYR、関係会社・合弁事業からの持分法投資利益が前年同期の▲5,485万MYRから1.01億MYRへ、税引前利益は▲1.35億MYRから1.10億MYRへ黒字転換。一方で、純利益は前年同期の▲2.51億MYRから▲4.08億MYRへ赤字幅拡大。これは2023年4月に適用が決まった税率引上げが繰延税金費用で遡って計算された一時的要因による。前四半期比では、売上高が3.5%増、税引前利益が43.3%減だった。

4Qの主なセグメント別売上高は、以下の通り。①公益事業は前年同期比32%増の29.55億MYR。電力や燃料の小売りに係るマルチ・ユーティリティ部門、および上下水道処理部門が堅調に推移した。②セメント製造・販売事業は同64%増の8.46億MYR。販売量増加と販売価格上昇が業績を押し上げた。③ホテル事業は同71%増の1.18億MYR。日本では北海道のニセコビレッジ、およびオーストラリアではパースのウエスティン、ブリスベン・シドニー港・メルボルンのマリオットホテルが好調だった。④建設事業は同72%減の1.64億MYR。コロナ禍に伴う移動制限が響いてプロジェクトの進捗が遅延した。⑤不動産投資・開発事業は同3.3倍の2.13億MYR。シンガポール(3 Orchard By-The-Park)やイギリス(Brabazon)の案件の収益計上貢献した。⑥経営サービス・その他事業は同20%増の6,580万MYR。海外子会社からの配当収益が増収に寄与した。

How do we view this?

マレーシアでは7月以降、MCO(活動制限令)がNRP(国家回復計画)に改められ、最も厳しい完全ロックダウン(FMCO)の第1段階から経済・社会活動の全面再開の第4段階までの移行計画が定められた。そのような中でも、公益事業、建設事業、およびセメント製造・販売事業は、生活に必要な不可欠な事業として安定的に推移するものと期待される。

9/12時点でマレーシア成人の7割以上が新型コロナワクチン2回の接種を終えるなどワクチン接種普及が進むなか、クアラルンプール首都圏が9/10からNRP第2段階へ移行した。ホテル事業では、日本やオーストラリアに加えて今まで出遅れていたマレーシアの業績への貢献が期待されよう。

業績推移

※参考レート 1MYR=26.16円

事業年度	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6F	2023/6F
売上高(百万MYR)	17,153	18,504	17,356	17,798	18,137
当期利益(百万MYR)	242	-189	-368	185	258
EPS(MYR)	0.02	-0.02	-0.03	0.02	0.02
PER(倍)	31.75	-	-	31.75	31.75
BPS(MYR)	1.21	1.13	1.16	1.17	1.17
PBR(倍)	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64
配当(MYR)	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03
配当利回り(%)	6.30	6.30	4.72	4.72	4.72

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(MYR) 0.03 (予想はBloomberg)

終値(MYR) 0.635 2021/9/21

会社概要

1955年創業の総合インフラ開発企業で、マレーシア最大のコングロマーットの1つ。YTLの名は創業者であるヨー・ティオンレイの名前の頭文字を取っている。

主力の公益(ユーティリティ)事業のほか、建設事業、ホテル事業、セメント製造・販売事業、不動産投資・開発事業、経営サービス・その他事業、および情報テクノロジー・電子取引関連事業を手掛ける。

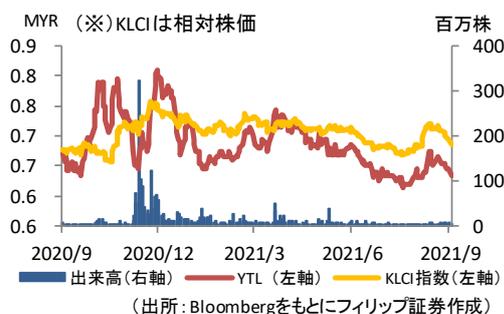
また、1996年に東京証券取引所にアジア系企業として初めて上場するなど日本との関係も深い。

公益事業は、発電(受託市場およびマーチャント市場の両方を含む)部門、給水・排水処理部門、商業マルチ・エネルギービジネス部門、およびモバイル・ブロードバンドネットワーク部門などから構成される。

ホテル事業は、マレーシア国内でクアラルンプールに2つのホテル(JWマリオットとリッツカールトン)に加え、パンコール・ラウト・リゾート、タンジョン・ジャラ・リゾートなど、「ヴィスタナ」ブランドのホテルのチェーンを持っている。日本でも2010年に北海道ニセコのニセコビレッジを買収し、ニセコのリゾート開発に注力している。

企業データ(2021/9/21)

ベータ値	0.93
時価総額(百万MYR)	7,017
企業価値=EV(百万MYR)	40,955
3か月平均売買代金(百万MYR)	3.07



主要株主(2021/9)

1. Yeoh Tiong Lay & Sons HLDG	50.2
2. Employees Provident Fund Board	6.26
3. クレディスイス・グループ	4.64

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
+81 3 3666 6980
kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

2021年9月22日

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。